中日新聞
2009年(平成21年)12月8日(火曜日)

郷土愛が隠し味!?
新商品販売

清酒「鳥羽の火祭」
幡豆の酒蔵 国重文にちなみ

清酒「三河鳥羽の火祭」を持つ山崎厚夫社長とポスター＝幡豆町の山崎で

幡豆町で国の重要無形民俗文化財に指定されている「鳥羽の火祭り」にちなんだ清酒「三河鳥羽の火祭」の新酒発表会が七日、同町西幡豆の酒蔵「山崎」であった。火祭りをPRする町農山漁村地域協議会製作のポスターもお披露目された。

この清酒は、町内で栽培された酒米「若水」と地元の天然水で醸造した辛口の純米吟醸酒。二〇〇五年に生酒が、〇六年には火入れして保存の利く熟成酒が売り出されている。

ラベルの原画は、西尾市の洋画家斎藤吾朗さんの作品。熟成酒用は燃えるたいまつに男たちが突進する様子、生酒用は男たちが海で身を清める「みそぎ」の光景が色鮮やかに描かれている。

今年の生酒、熟成酒を合わせた製造量は、一升瓶千二百本と七二〇ミリリットル瓶二千五百本に相当する約四キロリットルを予定。このうち生酒は七日に発売され、火祭りのある来年二月十四日まで販売する。山崎厚夫社長は「すっきりキレの良い味に仕上がった」と話している。問い合わせは、山崎＝電0563(62)2005＝へ。(広中康晴)